

平成 29 年度 綾瀬市立土棚小学校 学校関係者評価報告書

<p>綾瀬市教育委員会の基本方針</p>	<p>(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども</p>	
<p>学校教育目標</p>	<p>学校経営の方針</p>	
<p>よく考える子 ねばり強い子 じょうぶな子 思いやりのある子</p>	<p>①基礎的・基本的な学力の定着と個性を生かす教育活動、指導の充実に努める。 ②児童の健全育成のための望ましい環境を整え、人と人との関わりを大切にし、豊かな社会性を身に付けた人間形成に努める。 ③家庭・地域との連携を図り、地域教育力の積極的活用を推進し、より開かれた学校づくりに努める。 ④児童・保護者・地域の信頼に応えられるよう自らを律し、教育効果を高める研究・研修に努める。 ⑤学校・家庭・地域の教育の役割や機能について、それぞれが意識改善を図っていくよう努める。 ⑥異学年で行う「ふれあい活動」を軸として、豊かな人間関係づくりに努める。</p>	
<p>今年度の重点目標</p>		
<p>①人権教育の研究・研修の充実、発展 ②学年・学級経営の重視と効率化 ③児童が主役の教育活動の実現</p>		
	<p>評価の観点</p>	<p>学校の自己評価と改善策</p>
<p>1 学習指導</p>	<p>学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。</p>	<p>校内研究を中心とした授業改善を通して、児童の学習意欲と共に基礎・基本の定着が高まっています。また、児童一人ひとりが自分の考えをもち、友だちと学び合いながら課題を解決していく姿も多く見られるようになっていきます。今後も教職員は児童一人ひとりの実態を把握し、学力の向上に向け、魅力的な授業づくりに励んでいきます。家庭学習については、さらに充実が図れるように学習の仕方や内容をわかりやすく提示していきます。</p>
<p>2 教育課程</p>	<p>児童は、学校行事に積極的に参加している。</p>	<p>98%の児童が学校行事に対して積極的に取り組むことができたと答えています。今後も、学校行事を通して、児童がどのように成長するかをイメージしながら内容を吟味し、児童がより生き生きと活躍できる場にしていきます。</p>
<p>3 児童・生徒指導</p>	<p>学校は、「思いやりのある子」を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。</p>	<p>思いやりのある言動は、よりよい人間関係を築くために不可欠です。94%の児童が、学習や掃除の時には協力し、学校生活で相手の気持ちを考えていると答えています。今後も、児童の思いやりのある行動を認めたり褒めたりしながら、児童がよりよい人間関係を築けるような心の教育に取り組んでいきます。</p>
<p>4 児童・生徒指導</p>	<p>児童は、満足して学校の生活を送っている。</p>	<p>94%の児童が「学校が楽しい。」と回答し、学級や学校で友だちと楽しく生活していると思われます。今後も児童全員が安全で安心して生活できる環境づくりを推進し、一人ひとりの児童にとっていごこちのよい学校・学級作りに努めていきます。また、いじめの早期発見や再発防止のために、スクールカウンセラーの一層の活用、教育相談時間の確保等を行いながら児童の内面に寄り添っていきます。また職員間で児童の様子などを情報交換し、全職員で児童を見守るというスタンスで児童理解に励んでいきます。</p>
<p>5 児童・生徒指導</p>	<p>学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。</p>	<p>いじめの早期発見、再発防止の取組に関して、保護者の58%が「そう思う・やや思う」、31%が「わからない」と回答しています。今年度も学校だよりでいじめ防止に関する取組について伝えました。また、いじめ防止委員会の存在や児童指導部の取組について学校だより等で伝え、周知を図っていきます。児童へは引き続きスクールアンケートや日常の様子をきめ細かく見ながら、いじめの早期発見・再発防止のための指導を徹底していきます。また、道徳の時間等で「思いやりの心」を育むとともに、一人ひとりが大切にされる学校・学級をめざして一層努力をしていきます。</p>

6 保健管理	学校は、心と体の健康な子を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。	ふれあい活動は、全校児童が楽しみにしている活動で、アンケートからもその様子がうかがえます。異学年が活発な遊びを通して交流する姿は、とてもほほえましいものです。今後も、この活動だけでなく、「生活リズム大作戦」の実施やスクールカウンセラーとの連携等を行いながら児童の心と体の健康をめざしていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員が高い意識をもって、安全のための指導や施設等の点検・整備にしっかりと取り組んでいます。今後も、「火災や地震を想定した避難訓練」「不審者対応の避難訓練」「緊急一斉下校練習」「防災引き渡し訓練」「あんしん教室」等を実施して、危機管理をしていきます。また、ボランティアやPTAの方々の協力を得ながら、登下校の見守りなど、児童の安全対策について徹底を図っていきます。
8 支援教育	学校は、一人ひとりの児童に応じた支援の工夫をしている。	教職員の全員が「そう思う・ややそう思う」と回答しています。今後も、一人ひとりの児童の困り感や保護者の教育的ニーズに寄り添いながら個に応じた支援の充実に努めていきます。また、担任が一人で抱え込むことなく、他機関とも連携しながらケース会議を開くなどより効果的な支援をめざし取り組んでいきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校教育目標・学校経営方針の具現化をめざして、「教育課程・地域連携」「研究・研修」「健康・安全・支援教育」「児童指導・体育・情報」の各グループが計画・実行にあたっています。今後も、各グループがさらに機能させ、グループ間の連携を深めて、学校運営上の課題解決に向け全職員が一丸となって取り組んでいきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	校内研究では、全ての児童が楽しく「わかる・できる」授業づくりや共に学び合う力の育成のために、どのような取組をしたらよいのかということを研究しました。今後も、研究を重ね、授業改善等、日々の指導を充実させるための取り組みを行っていきます。また、多様化する教育的ニーズに対応するための研修も行っています。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	約73%の保護者は、「一人ひとりのよさを大切にしたい指導を行っている。」と回答しています。今後も、児童のスクールアンケートや職員間での情報交換などを通して児童の実態把握に心掛け、きめ細かい指導をめざしていきます。また、学校・家庭・地域の連携を密にとりながら、児童のよりよい成長につながるよう努めます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者等に適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者のアンケートの結果は、92%の方が「学校の様子を知ることができた」と回答しており、教職員も家庭との相互理解を図る努力をしています。今後も、たよりや授業参観・懇談会、学校・学年行事などを通して、児童の学習や活動の様子を伝えていきたいと考えています。さらに、保護者・地域の方々との連携を深め、より豊かな教育活動が行えるよう努力していきます。
【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】		
<p>○授業公開の参観の様子から、子ども達が落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいる。落ち着いた学校づくりのための取組は評価できる。</p> <p>○地域や校外での児童の様子からも、ふれあい活動の取組は、児童の人間関係づくりに効果をもたらしていると評価できる。</p> <p>○「よく考える子」については、昨年から継続した取組の成果が表れている。学力向上に向けた学校の取組は評価できる。また、家庭学習への取組についても、児童自ら学ぶ姿勢を大切にしたい取組をさらに続けてほしい。</p> <p>○いじめを防止するために、スクールアンケートの実施、児童指導全体会での情報交換、ケース会議など学校の取組について評価できる。保護者の方に授業参観等の時に子どもたちや学校の様子などをみてもらうことによって、学校の取組を理解してもらえると期待できる。</p>		